



猛牛・千葉茂の一言が カツカレーを誕生させた

かつて巨人軍に千葉茂という名選手がいた。

名門松山商業から川上哲治と同期で入団し、戦前・戦後を通じて巨人軍の黄金時代を支えてきた名二塁手、名リードオフマンである。

そのファイトあふれるプレーから「猛牛」のニックネームで鳴らした野球好きの選手だった。

また、長嶋茂雄の前に背番号3をつけていた選手としても有名である。

オールドファンに言わせると、史上最高のライトヒッターとのこと。嫌いな球はファウルで粘り、投手が根負けした球を右翼へ落とすという打法が得意だった。

引退後、近鉄の監督に迎えられたが、それまでは「パウルス」といった球団名を、千葉のニックネームにちなんで「バッファロー」（現在はバッファローズ）とする厚遇ぶりを近鉄側は示した。

世界中で個人のニックネームを球団名に残しているのは千葉だけだ。

その千葉が意外なところにも名を残している。

いまでは広く知られているカツカレーなる人気料理があるが、その生みの親が千葉だという

のだ。

カツカレーの元祖をうたう銀座の「グリルスイス」によるとこうだ。

巨人軍の現役選手だった千葉はグリルスイスの常連で、カレーもカツも好んで食べていた昭

和二十三年のある日、別々だと面倒だからカツを切っ

て、その上にカレーをかけてくれと注文したことから、

このカツカレーが誕生したのだという。

野菜をベースにしたカレーと薄めに切った肩ロース

を揚げたカツの絶妙な関係にある。

すりおろした野菜で煮込んだカレーソースは、やわら

かな甘味さえ感じられる。

カレーと一緒に煮込む肉は自然にとろけ、カツのうま

さを損なうこともない。